

平成15年度の科学技術に関する予算、人材等の資源配分の方針
の作成について

平成14年2月28日

1. 検討の方針

- (1) 平成15年度は、第2期科学技術基本計画の3年目であり、世界最高水準の科学技術創造立国の実現を目指し、引き続き基本計画に掲げる施策を積極的に展開する。
- (2) このため、総合科学技術会議は、平成15年度概算要求に先立って、「平成15年度の科学技術に関する予算、人材等の資源配分の方針」(以下、「予算、人材等の資源配分の方針」)をとりまとめ、特に重点的に推進すべき事項等について明らかにすることとする。

2. 検討の視点

- (1) 予算、人材等の資源配分の方針の検討においては、科学技術分野の急激な状況変化に対応するため、前年に定めた方針からの継続性を考慮しつつ、最新の技術動向・研究動向を反映して作成する。

(2) 検討に当たっての現時点の主要な問題意識は、以下のとおりである。

経済活性化

経済活性化へ寄与する(産業活性化、空洞化対策、雇用創出等)。

産学官連携の強力な推進によって研究開発の充実、ベンチャー・新産業の創出を図る。

地域科学技術の振興により、科学技術を核にして地域経済を活性化する。

重点分野

分野間の融合領域を重視する。

- BT(バイオテクノロジー)、IT(情報技術)、NT(ナノテクノロジー)間の融合等

将来の産業競争力を決定づける技術課題を重視する。

- バイオテクノロジー材料(DNAチップ)、半導体材料(ポストシリコン)、新材料(カーボンナノチューブ)等

地球環境問題に飛躍的展開をもたらす環境技術開発を促進する。

基礎研究

将来の発展の原動力としての基礎研究を推進する。

研究環境・体制の整備

競争的研究環境を構築するため競争的資金の制度(間接経費を含む)を抜本的に改革する。この結果を、国公立大学の改革にも反映する。

特殊法人や独立行政法人が科学技術政策において担うべき機能（機動性、弾力性等）を確保し、その充実を図る。

大学等施設を計画的かつ重点的に整備する。

人材

異分野の融合領域での人材を育成・確保する。

- バイオインフォマティクス、バイオスタティスティクス等

大学院生、若手研究者、女性研究者、外国人研究者、高齢研究者等の科学技術人材を育成・活用する。

3 . スケジュール

予算、人材等の資源配分の方針は、随時本会議で検討を進めつつ、6月目途に決定をする予定。

(参考) 平成14年度科学技術関係予算(主要分野別)

1. 平成14年度予算案における科学技術関係予算の総額

3兆5,387億円

(前年度予算額3兆4,685億円, 対前年度2.0%増)

2. 主要な予算額(単位:億円)

	平成13年度 当初予算	平成13年度 補正予算 (1次、2次計)	平成14年度 予算案
○科学技術の戦略的重点化			
ライフサイエンス分野	1,546	522	1,663
情報通信分野	1,165	831	1,155
環境分野	380	144	507
ナノテクノロジー・材料分野	73	128	115
○科学技術システムの改革等			
競争的資金	3,265	-	3,473
うち科学研究費補助金	1,580	-	1,703
国立大学等の施設整備	1,013	3,957	1,464
産学官連携	2,621	723	3,384
地域科学技術	489	723	688

※

【注】

1. 「科学技術の戦略的重点化」の分野別の金額は当該分野の研究等を主目的とする施策に計上された経費を集計したものである。
2. 「科学技術の戦略的重点化」(独立行政法人及び競争的資金を除く)の平成14年度予算案及び13年度当初予算額は文部科学省が集計した。
3. 「科学技術システムの改革等」の産学官連携、地域科学技術及び平成13年度の補正予算額は内閣府が集計した。
4. 「国立大学等の施設整備費」は国立学校特別会計の文教施設費である。なお平成13年度補正予算には施設と一体的な設備等の整備分(655億円)を含む。
5. 今後の精査により金額が変更される可能性がある。

※平成14年度競争的資金の数値は、新規施策について競争的資金に含まれる範囲を精査中のため暫定値である。